

# 後発医薬品（ジェネリック医薬品） に関するアンケート結果の概要

令和2年3月



東京都福祉保健局

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

東京都における特性や課題などを明らかにし、後発医薬品を安心して使用できる環境整備に向けた施策を検討するため、アンケートを実施した。

## 2. 調査期間

令和元年9月14日から10月8日まで

## 3. 調査対象

1	病院	645	都内全数調査
2	病院医師	1,290	上記病院に勤務する医師各2名
3	診療所	2,400	都内約24,600施設から無作為抽出 (抽出内訳) 一般診療所2,160 歯科診療所 240
4	薬局	2,200	都内約6,600施設から無作為抽出
5	薬局訪問患者	4,400	上記薬局を訪れた患者各薬局2名 (午前1名、午後1名 それぞれ最初に来局された患者)
6	保険者	310	区市町村国保・国保組合 (全数調査) 83 東京都後期高齢者医療広域連合 (全数調査) 1 共済組合 (全数調査) 25 協会けんぽ (全数調査) 1 健保組合 (都内約600健保組合から無作為抽出) 200

# 調査の概要

---

## 4. 調査方法

病院・病院医師・診療所・薬局・保険者：インターネット調査

患者：インターネット調査、質問紙調査

## 5. 回答の状況

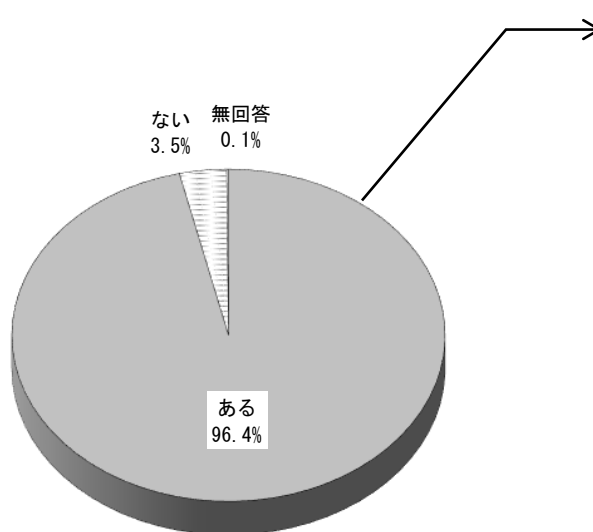
	対象数	回答数	回答率
1. 病院	645	189	29.3%
2. 病院医師	1,290	261	20.2%
3. 診療所	2,400	409	17.0%
4. 薬局	2,200	868	39.5%
5. 薬局訪問患者	4,400	1,425	32.4%
6. 保険者	310	252	81.3%

# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品について

- ・ 聞いたことがある（報告書p.8） …… 約96%

【全体】 (n=1, 425)



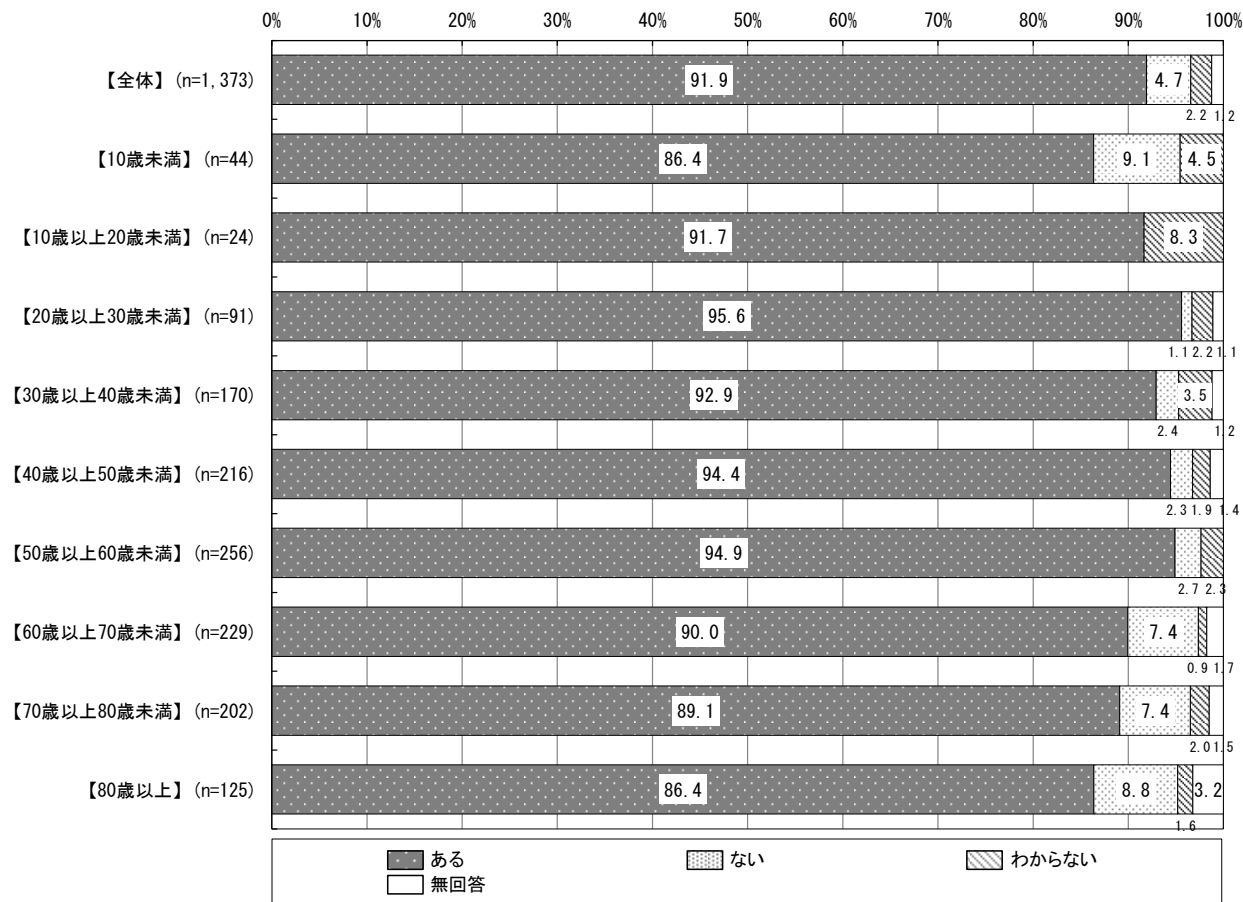
知っている内容	割合
先発医薬品と比べて薬の金額が安い	92.9%
先発医薬品と効き目が同じ	63.7%
先発医薬品の特許が切れたあとに、他のメーカーが製造し販売される薬	53.5%
国（厚生労働省）で承認された薬	51.8%
医療費（薬剤費）が節約され、国民皆保険制度を維持するのに役立つ	51.8%
ジェネリック医薬品が存在しない医薬品もある	51.3%
先発医薬品と品質・有効性・安全性が同等	41.4%
先発医薬品と添加物が異なる場合がある	40.6%
薬によっては、ひとつの先発医薬品に対して、複数のジェネリック医薬品が存在する	39.9%
製剤技術の進歩やメーカーの製剤開発の工夫により、色や形、味など、飲みやすく改良されているものがある	31.0%
先発医薬品の製造販売が終了し、ジェネリック医薬品しかない場合もある	18.2%

⇒ 「国（厚生労働省）で承認された薬」などは認知度が低い。（報告書p.10）

# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品について

- 使ったことがある（報告書p.12） ……約92%



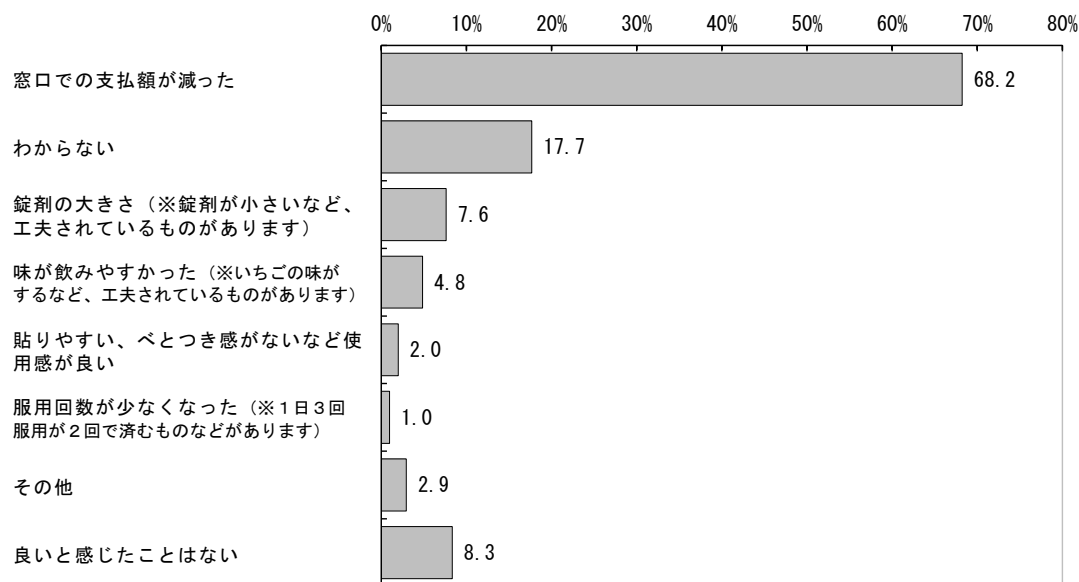
※年代別は【無回答】(n=16)を除く。

⇒10歳未満と60歳以上では、使ったことがない割合が他の年齢に比べて多い。

# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

- ジェネリック医薬品を使用して良いと感じたこと(複数回答)(報告書p.14)
  - ・ 窓口での支払額が減った……約68%

【全体】(n=1,262)



⇒10歳未満では、「味が飲みやすかった」が最も多い。(報告書p.15)

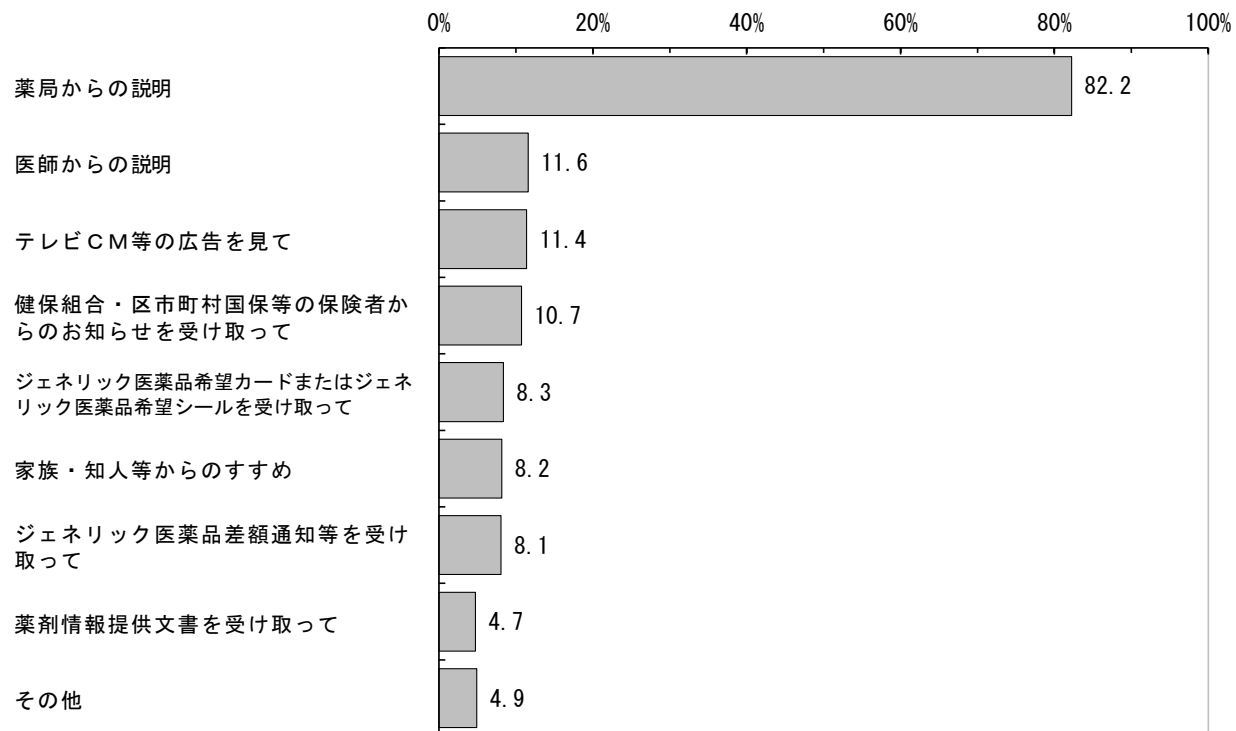
年齢層	1位
10歳未満	味が飲みやすかった
10歳以上	窓口での支払額が減った

# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品に変更したきっかけ（複数回答）（報告書p.18）

- ・ 薬局からの説明 ……約82%

【全体】（n=1,018）

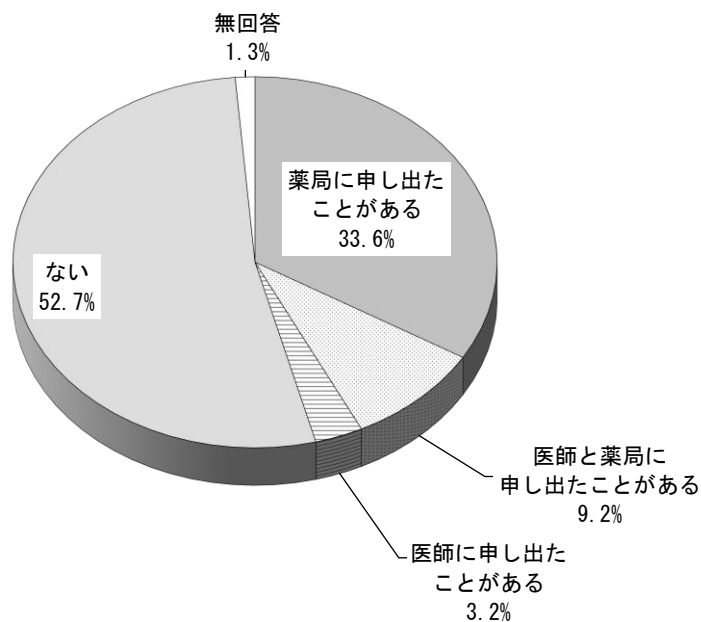


# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● 自分からジェネリック医薬品の希望を申し出た経験（報告書p.20）

- ・ 申し出たことがある（合計） ……約46%

【全体】（n=1,373）



⇒20歳未満と70歳以上では、申し出たことがない割合が他の年齢層に比べて多い。（報告書p.21）

年齢層	申し出たことがない割合
10歳未満	約75%
10歳以上20歳未満	約67%
70歳以上80歳未満	約61%
80歳以上	約65%

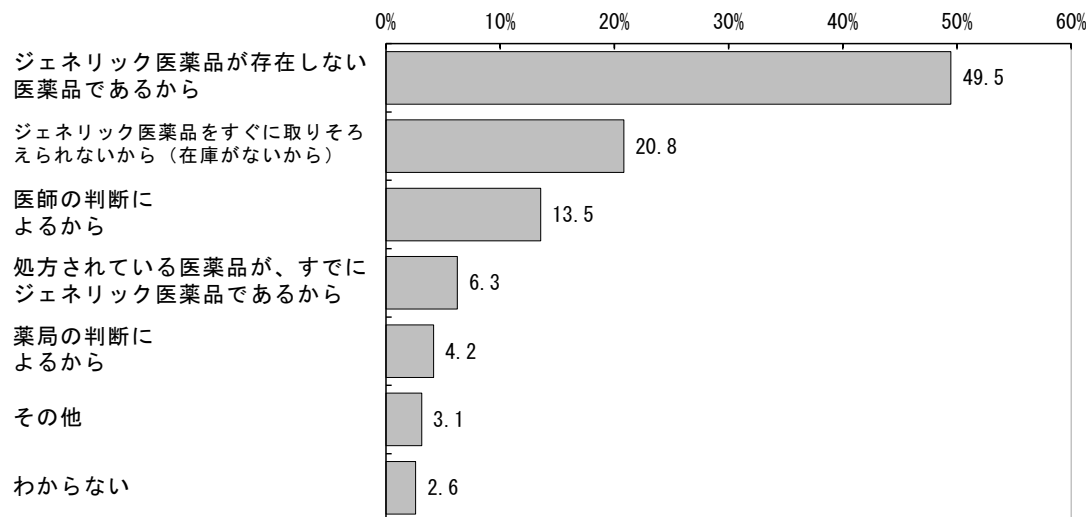


# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品の希望を申し出たのに切り替えられなかった理由 (報告書p.26)

- ジェネリック医薬品が存在しない医薬品であるから ……約50%
- ジェネリック医薬品をすぐに取りそろえられないから  
(在庫がないから) ……約21%
- 医師の判断によるから ……約14%

### 【全体】 (n=192)

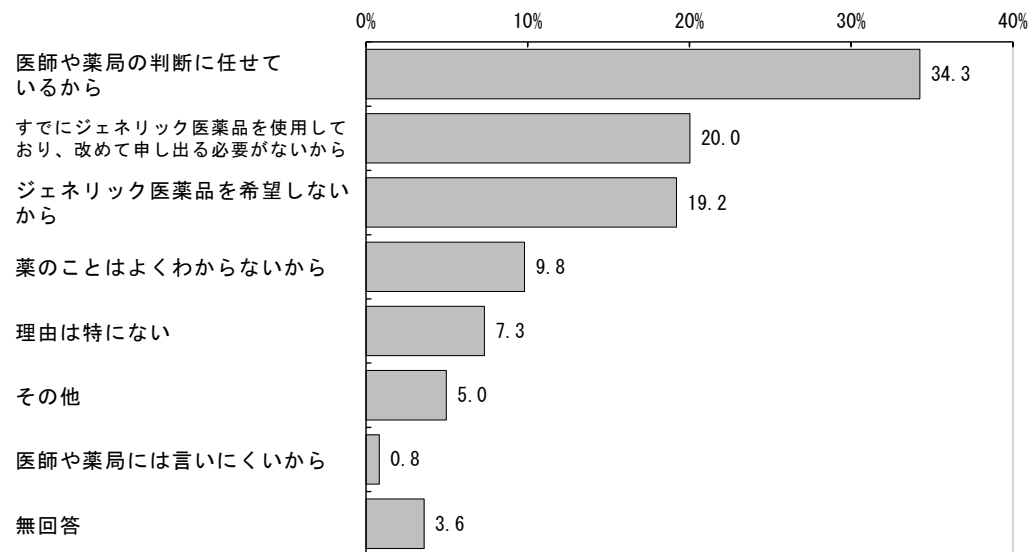


# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品の希望を申し出たことがない理由（報告書p.28）

- 医師や薬局の判断に任せているから ……約34%
- すでにジェネリック医薬品を使用しており、改めて申し出る必要がないから ……約20%
- ジェネリック医薬品を希望しないから ……約19%

【全体】 (n=724)



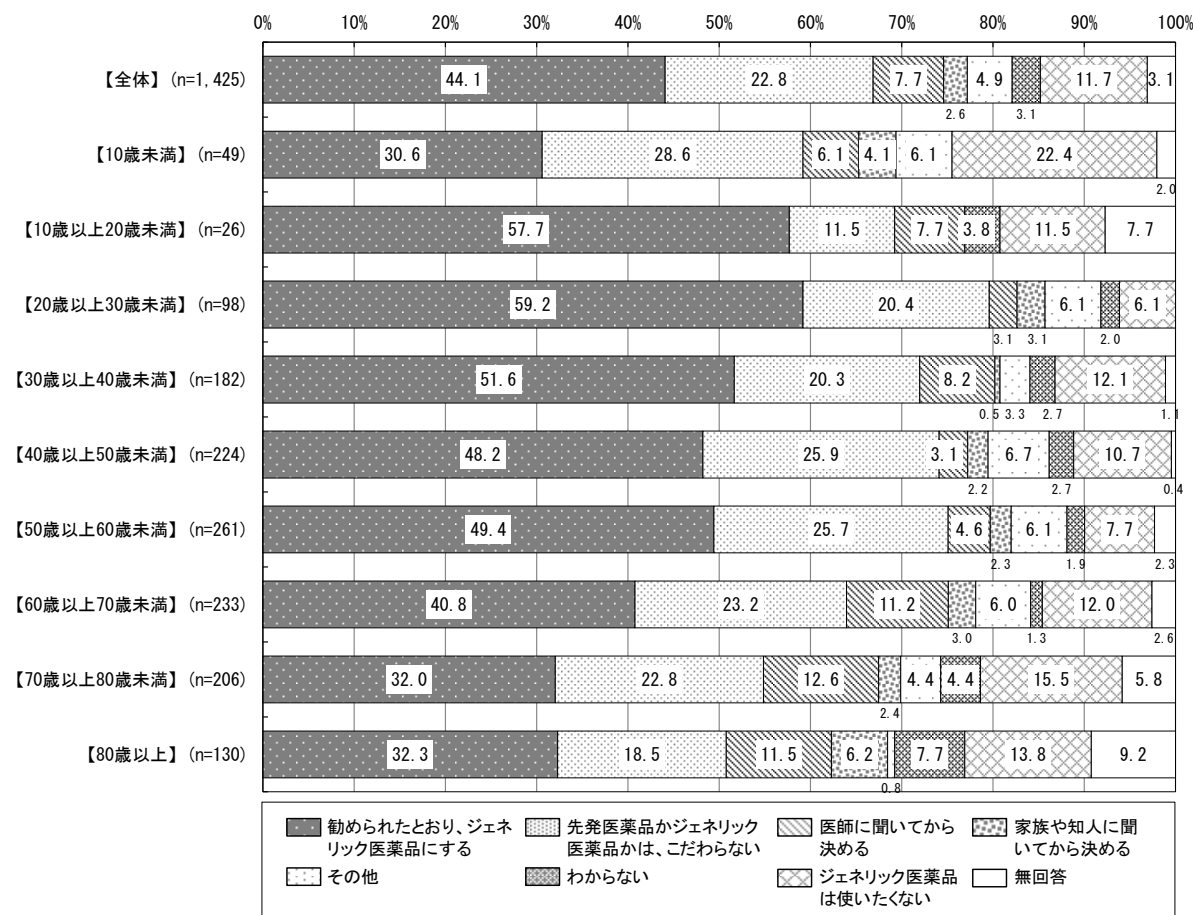
⇒10歳未満は「ジェネリック医薬品を希望しないから」（約30%）が最も多い。（報告書p.29）

# 主な回答結果【患者】

※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● 薬局でジェネリック医薬品を勧められた場合の考え (報告書p.30)

- ・ 勧められたとおり、ジェネリック医薬品にする ……約44%
- ・ 先発医薬品かジェネリック医薬品かは、こだわらない ……約23%



⇒10歳未満と70歳以上では、「ジェネリック医薬品にする」・「こだわらない」が他の年齢層に比べて少ない。(報告書p.31)

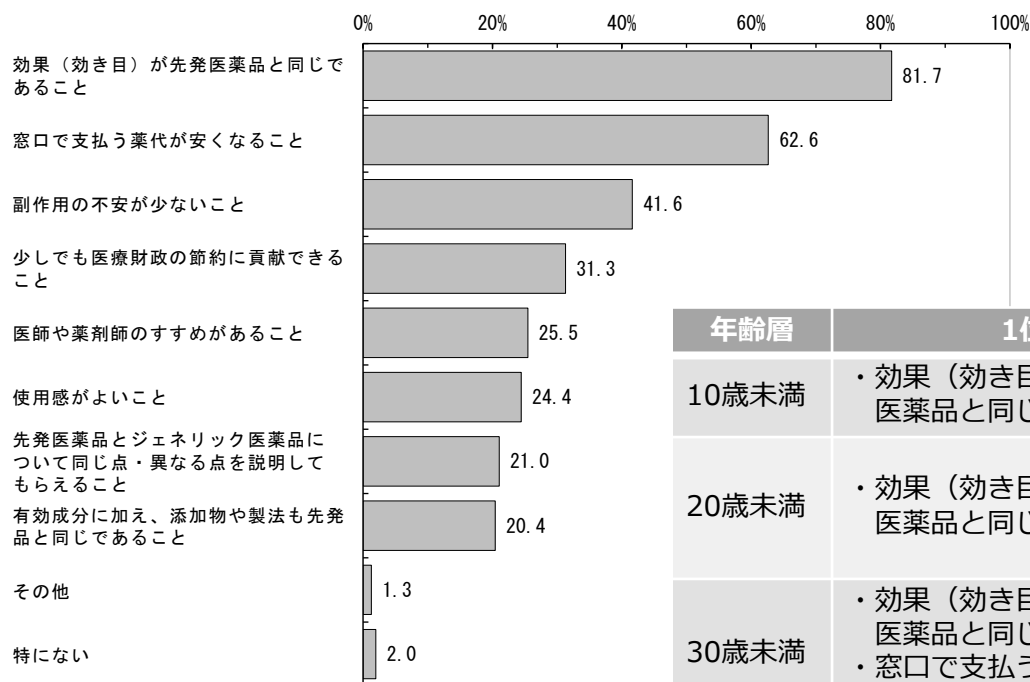
※年代別は【無回答】(n=16)を除く。

# 主な回答結果【患者】 ※服薬者が子供の場合には、回答者は保護者

## ● ジェネリック医薬品を使用するにあたって重要だと思うこと（複数回答） （報告書p.32-33）

- 効果（効き目）が先発医薬品と同じであること ……約82%

【全体】 (n=1,170)



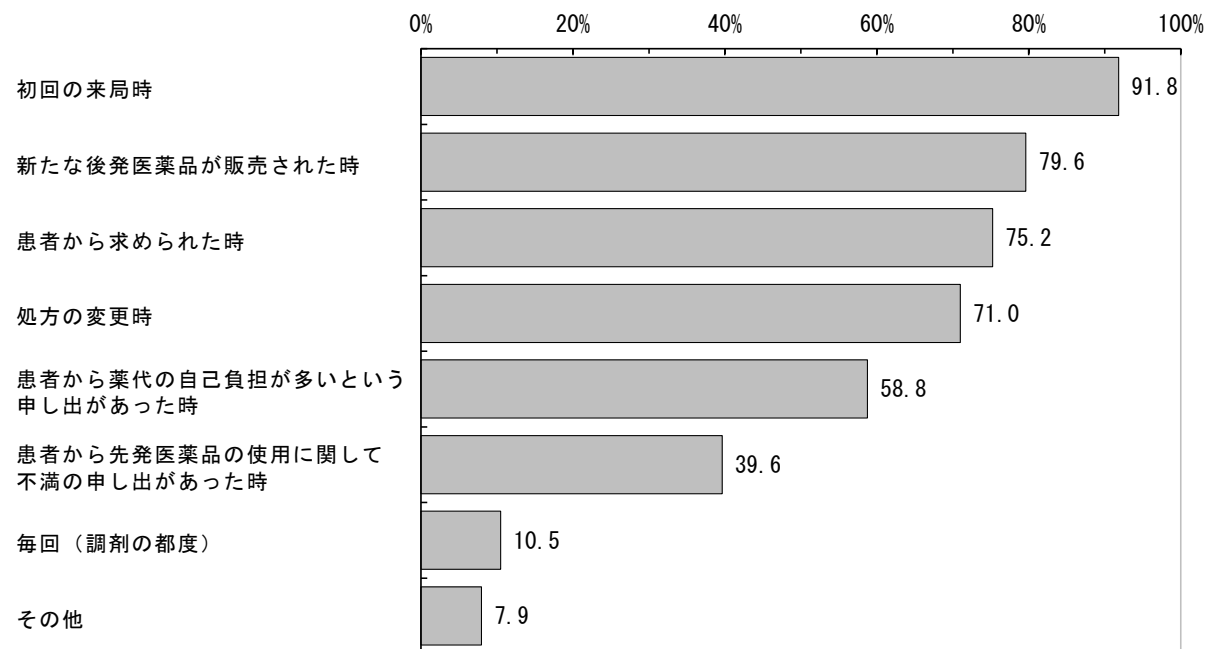
年齢層	1位	2位	3位
10歳未満	・効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	・使用感がよいこと	・副作用の不安が少ないこと
20歳未満	・効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	・使用感がよいこと ・窓口で支払う薬代が安くなること	・副作用の不安が少ないこと
30歳未満	・効果（効き目）が先発医薬品と同じであること ・窓口で支払う薬代が安くなること	・使用感がよいこと	・副作用の不安が少ないこと
30歳以上	・効果（効き目）が先発医薬品と同じであること	・窓口で支払う薬代が安くなること	・副作用の不安が少ないこと

# 主な回答結果【薬局】

## ● 患者に後発医薬品の説明を行う時期（複数回答）（報告書p.53）

- 初回の来局時 ……約92%
- 新たな後発医薬品が販売された時 ……約80%
- 患者から求められた時 ……約75%

【全体】（n=868）

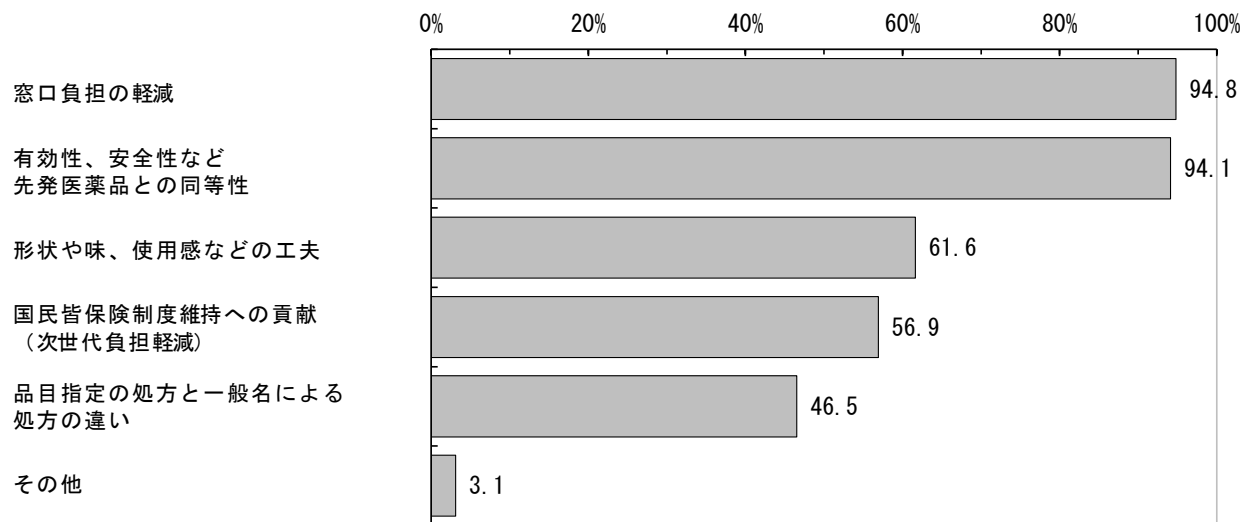


# 主な回答結果【薬局】

## ● 患者への後発医薬品の説明内容（複数回答）（報告書p.54）

- 窓口負担の軽減 ……約95%
- 有効性、安全性など先発医薬品との同等性 ……約94%
- 形状や味、使用感などの工夫 ……約62%

【全体】（n=868）



# 主な回答結果【薬局】

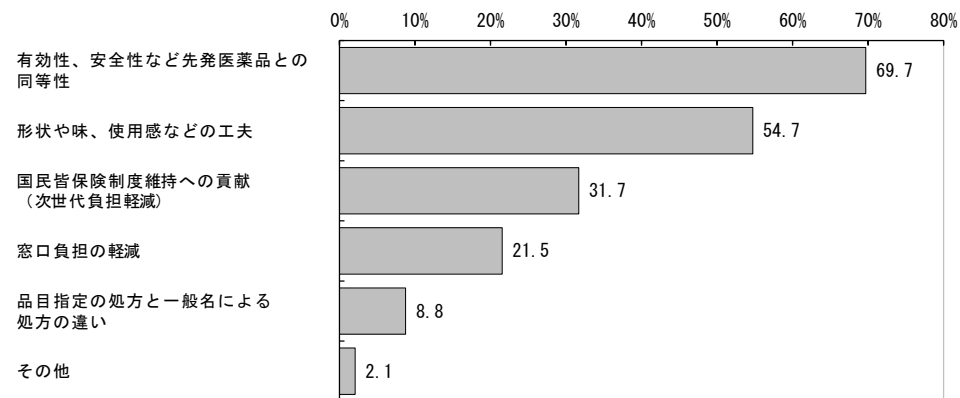
## ● 対象者別の効果的な説明（複数回答）（報告書p.62-63）

対象者	1位	2位
若年層（15歳未満）への説明	有効性・安全性など先発医薬品との同等性 約70%	形状や味、使用感などの工夫 約55%
高齢者（65歳以上）への説明	有効性・安全性など先発医薬品との同等性 約72%	窓口負担の軽減 約70%

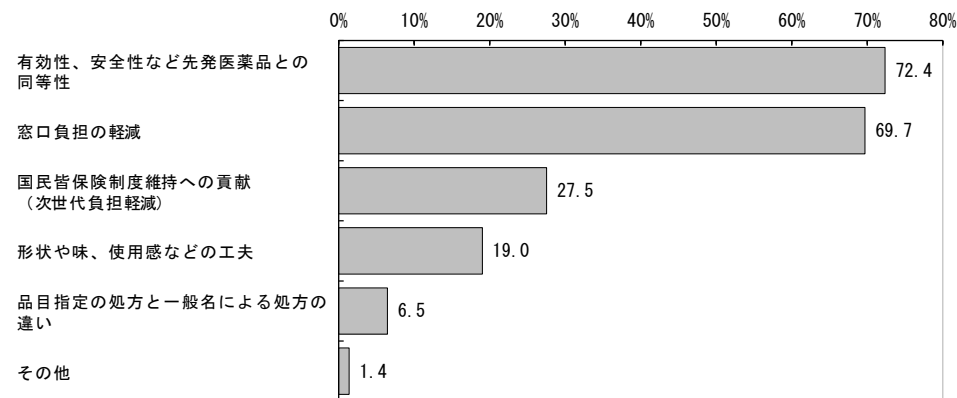
### 若年層への説明

### 高齢者への説明

#### 【全体】（n=868）



#### 【全体】（n=868）

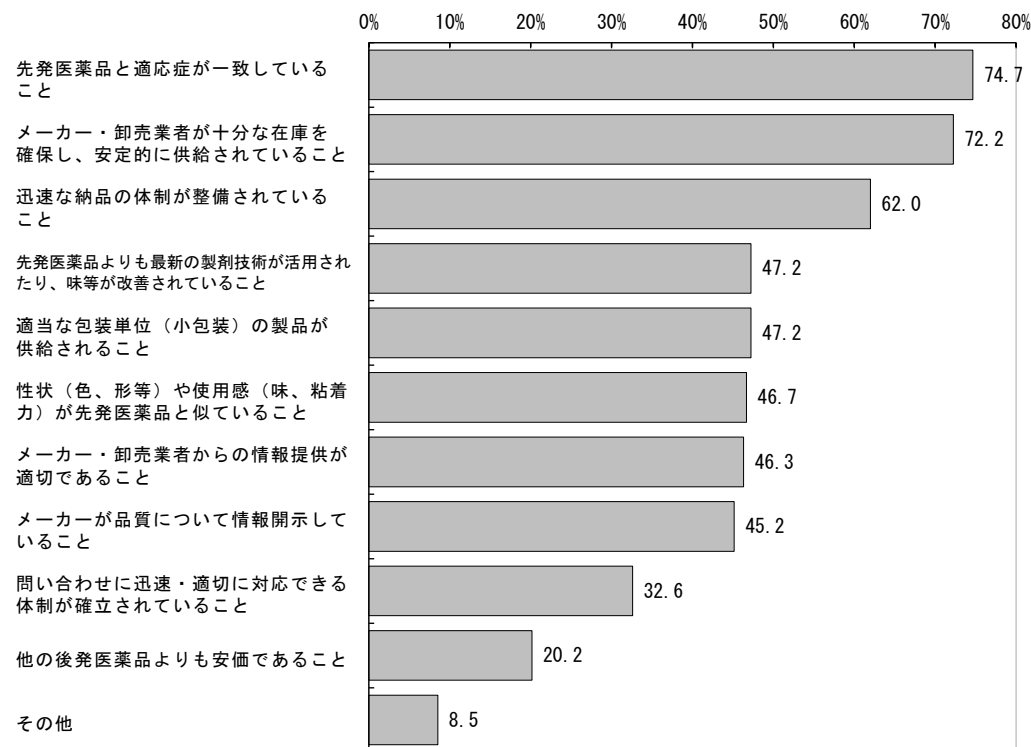


# 主な回答結果【薬局】

## ● 後発医薬品を採用するときに重視すること（複数回答）（報告書p.64）

- 先発医薬品と適応症が一致していること ……約75%
- メーカー・卸売業者が十分な在庫を確保し、  
安定的に供給されていること ……約72%
- 迅速な納品の体制が整備されていること ……約62%

【全体】（n=868）

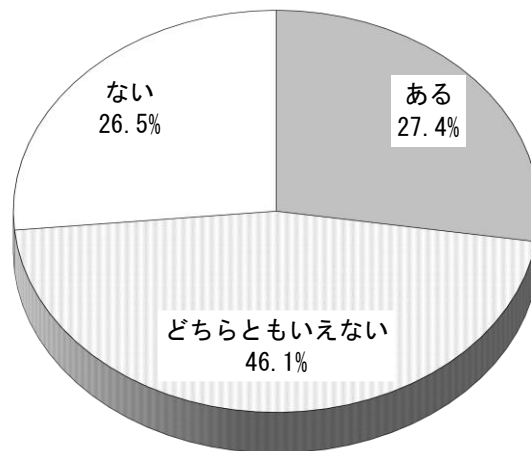




# 主な回答結果【薬局】

- 後発医薬品に対する不安感（報告書p.65）
  - ・ ある ……約27%
  - ・ どちらともいえない ……約46%
  - ・ ない ……約27%

【全体】 (n=868)

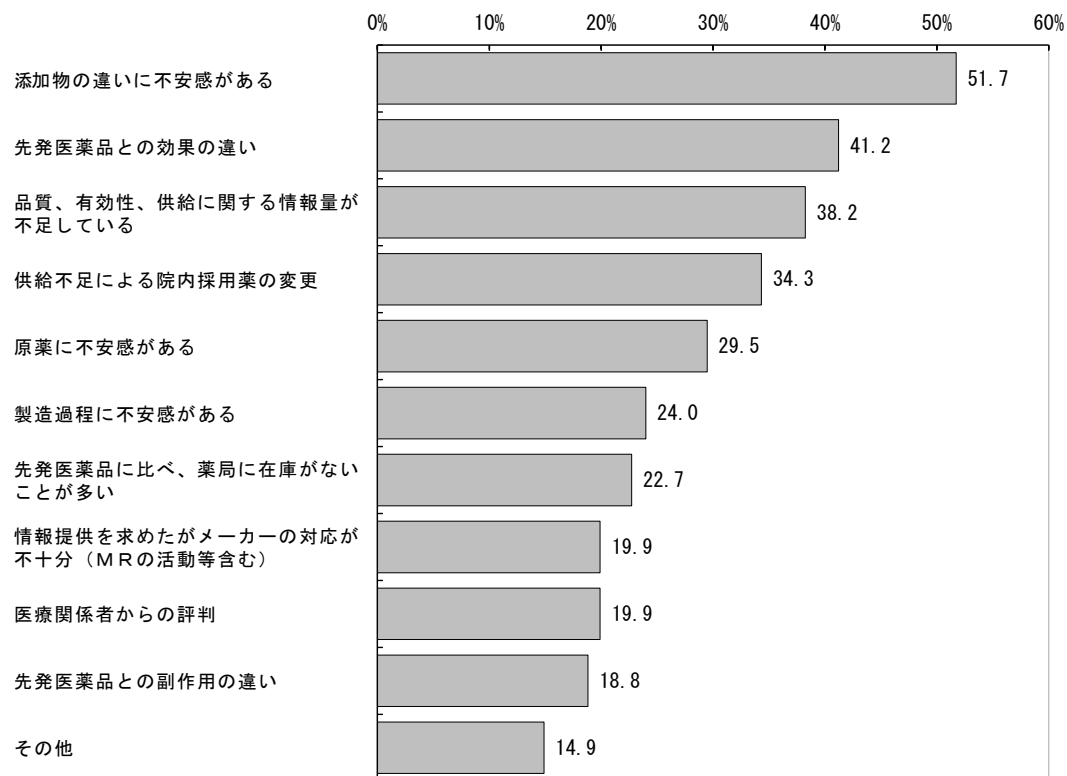


# 主な回答結果【薬局】

## ● 後発医薬品に関して不安感を抱いている理由（複数回答）（報告書p.66）

- 添加物の違いに不安感がある ……約52%
- 先発医薬品との効果の違い ……約41%
- 品質、有効性、供給に関する情報量が不足している ……約38%

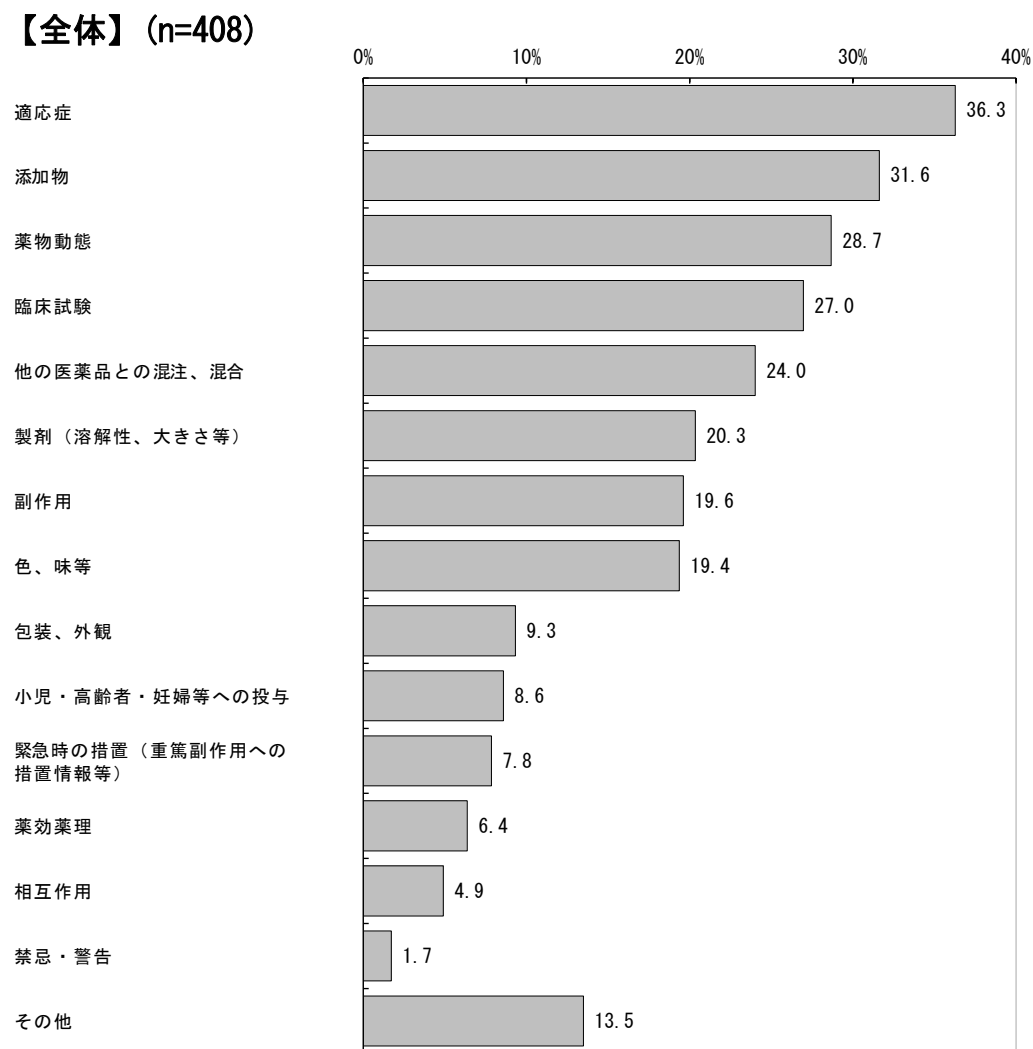
【全体】（n=638）



# 主な回答結果【薬局】

## ● 後発医薬品に関して不足していると思われる情報（複数回答）（報告書p.73）

- 適応症 ……約36% 【全体】(n=408)
- 添加物 ……約32%
- 薬物動態 ……約29%

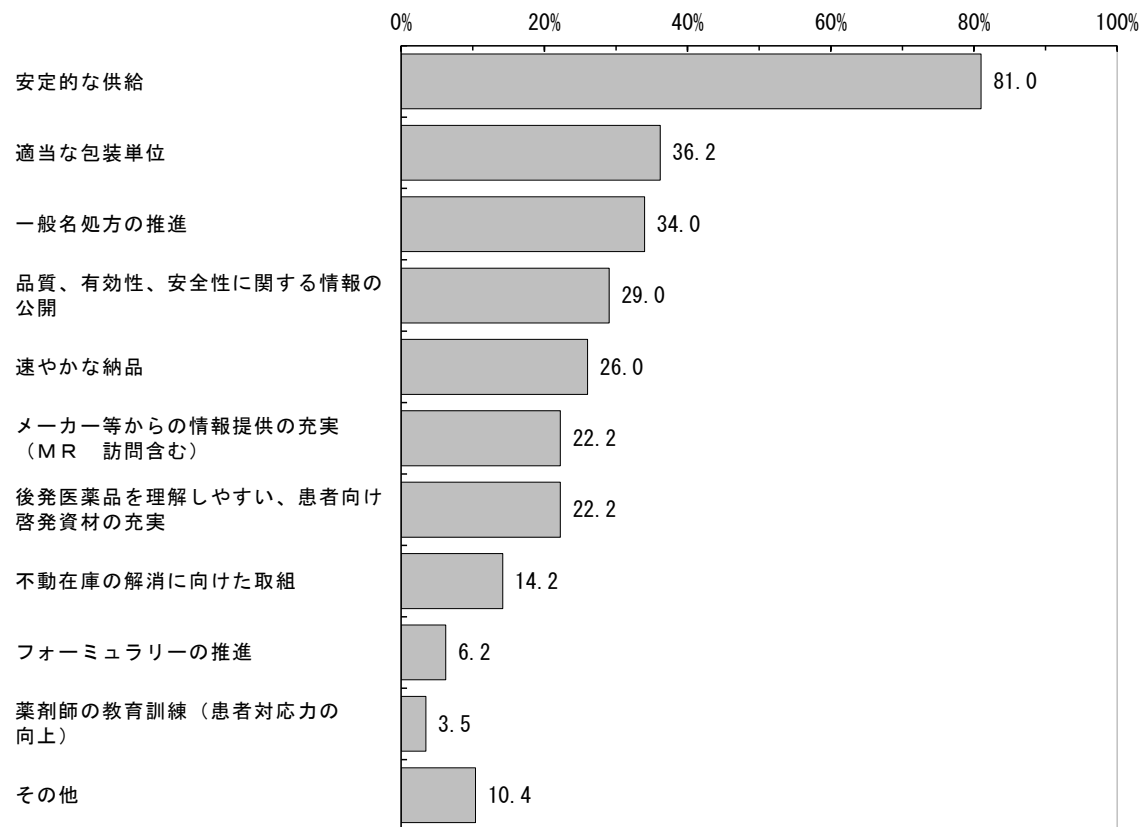


# 主な回答結果【薬局】

- 後発医薬品の使用を進めていく場合、重要と考える条件（複数回答）  
（報告書p.74）

- 安定的な供給 ……約81%

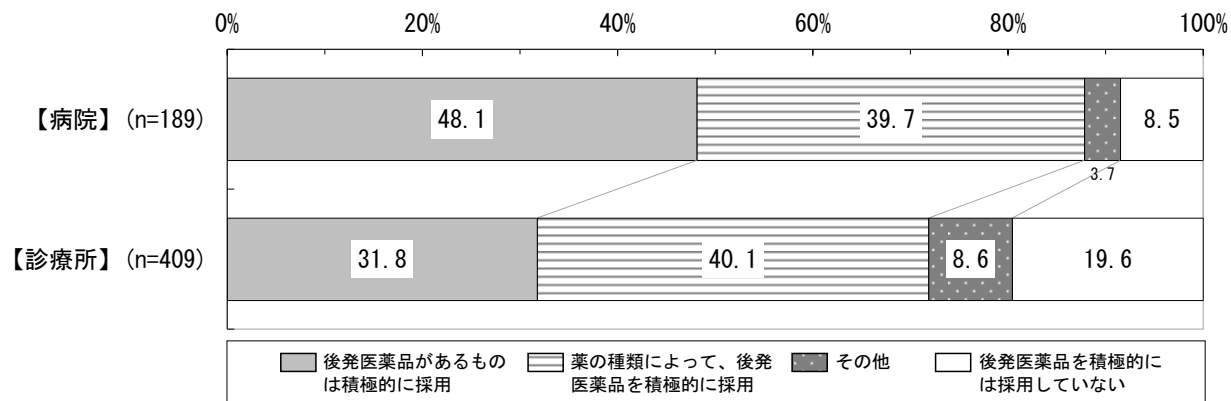
【全体】（n=868）



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

## ● 後発医薬品の採用状況（報告書p.87）

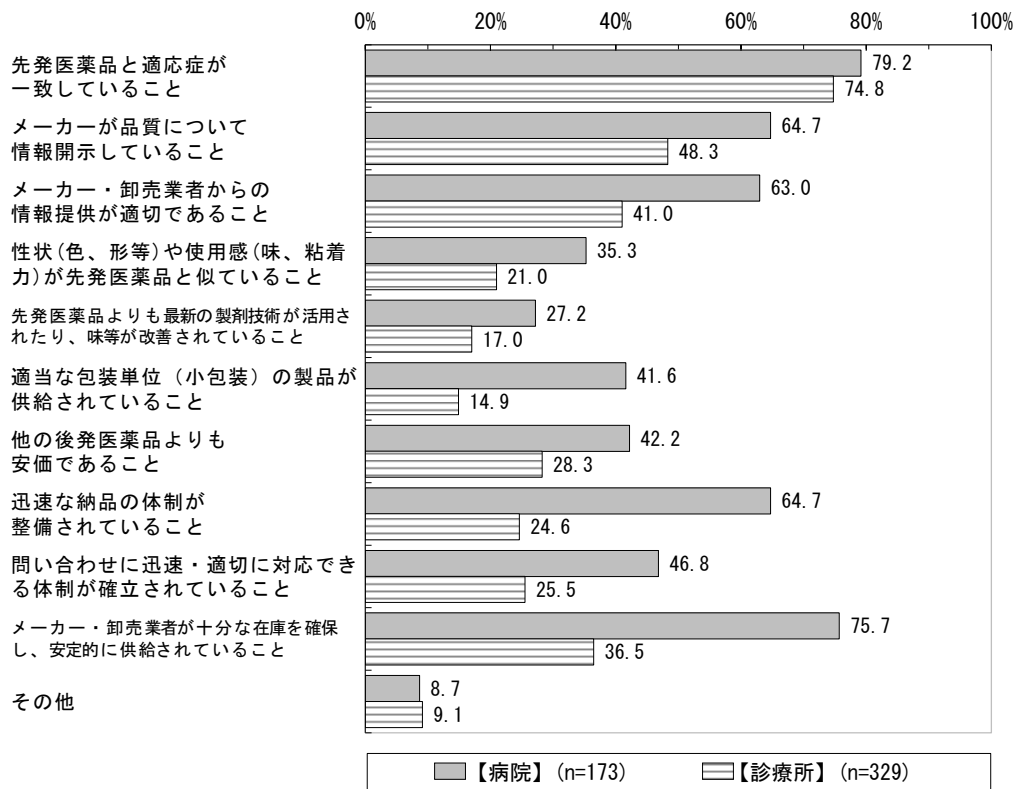
対象	1位	2位
病院	後発医薬品があるものは積極的に採用 約48%	薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 約40%
診療所	薬の種類によって、後発医薬品を積極的に採用 約40%	後発医薬品があるものは積極的に採用 約32%



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

## ● 後発医薬品を採用する際に重視すること（複数回答）（報告書p.88）

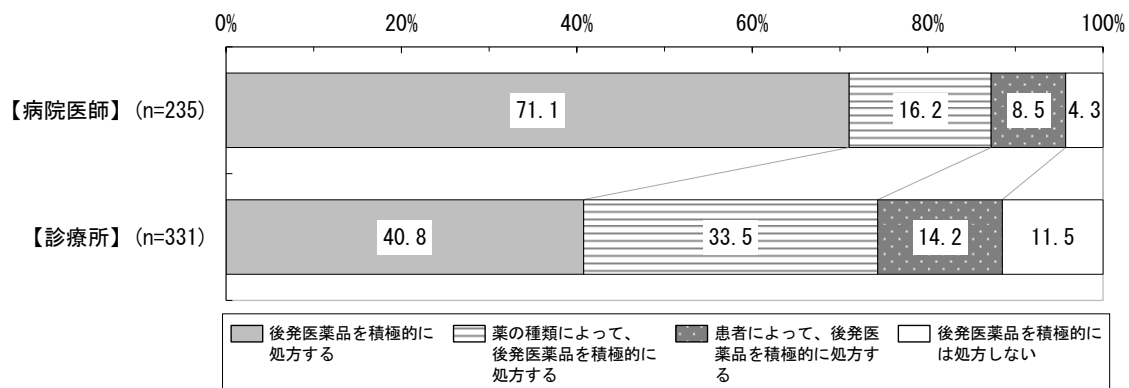
対象	1位	2位
病院	先発医薬品と 適応症が一致 していること  約79%	メーカー・卸売業者 が十分な在庫を確保 し、安定的に供給さ れていること  約76%
診療所	先発医薬品と 適応症が一致 していること  約75%	メーカーが品質につ いて情報開示してい ること  約48%



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

- 院外処方箋について、後発医薬品の処方に関する考え（複数回答）（報告書p.97）

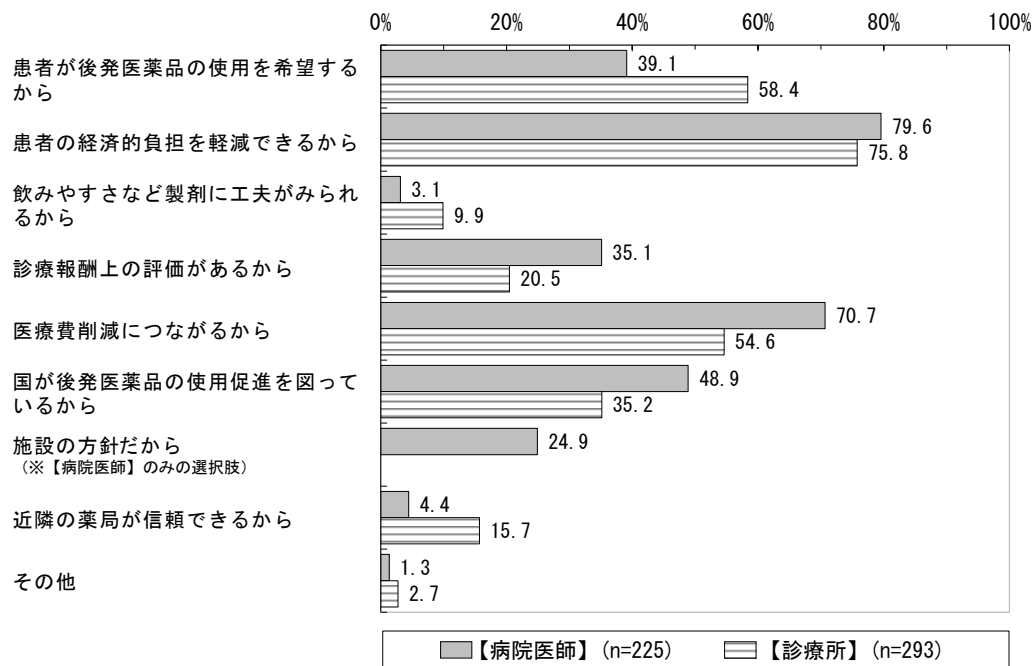
対象	病院医師	診療所
1位 後発医薬品を積極的に処方する	約71%	約41%
2位 薬の種類によって、後発医薬品を積極的に処方する	約16%	約34%
3位 患者によって、後発医薬品を積極的に処方する	約9%	約14%



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

## ● 後発医薬品を積極的に処方する理由（複数回答）（報告書p.98）

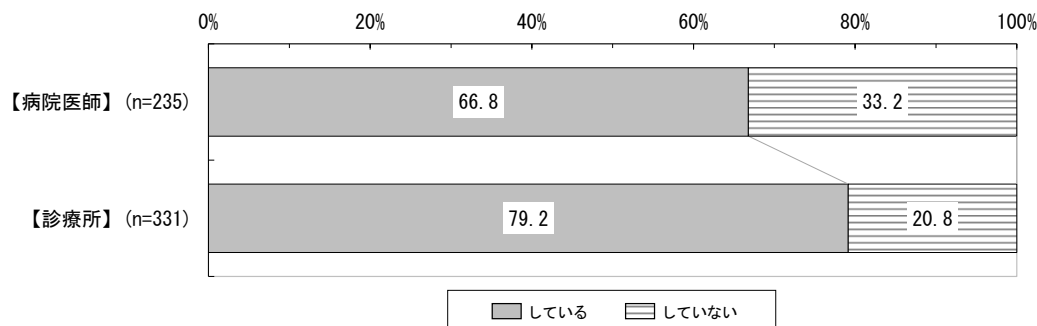
対象	1位	2位
病院 医師	患者の経済的負担を軽減できるから 約80%	医療費削減につながるから 約71%
診療所	患者の経済的負担を軽減できるから 約76%	患者が後発医薬品の使用を希望するから 約58%





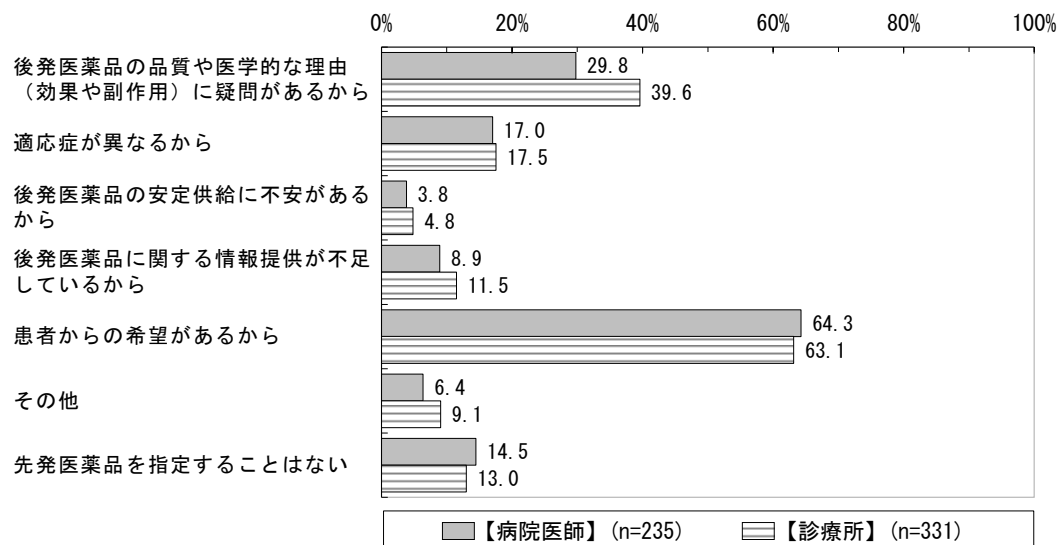
# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

## ● 一般名処方による処方箋発行の状況（報告書p.100）



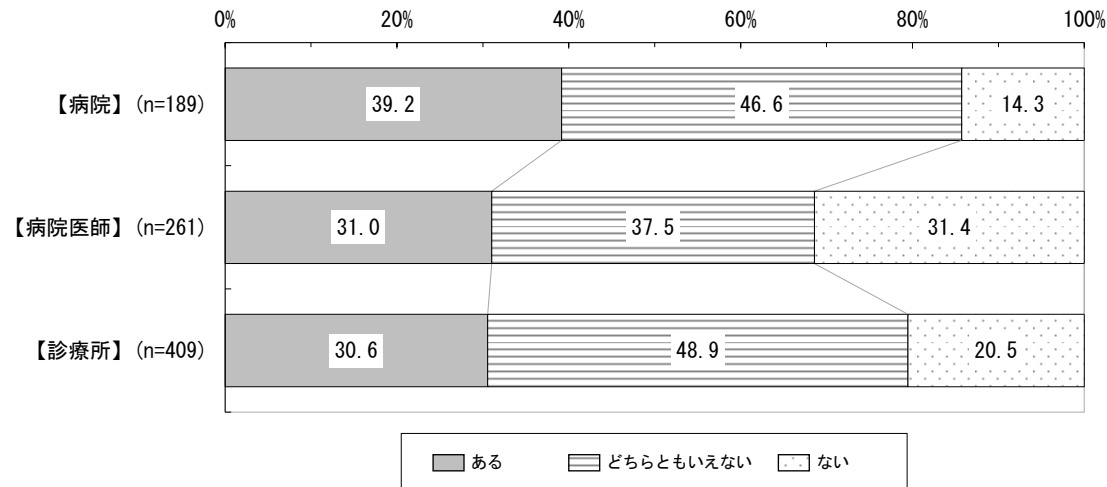
## ● 先発医薬品を指定する場合の理由（複数回答）（報告書p.103）

対象	1位 患者からの希望があるから	2位 後発医薬品の品質や医学的な理由（効果や副作用）に疑問があるから
病院医師	約64%	約30%
診療所	約63%	約40%



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

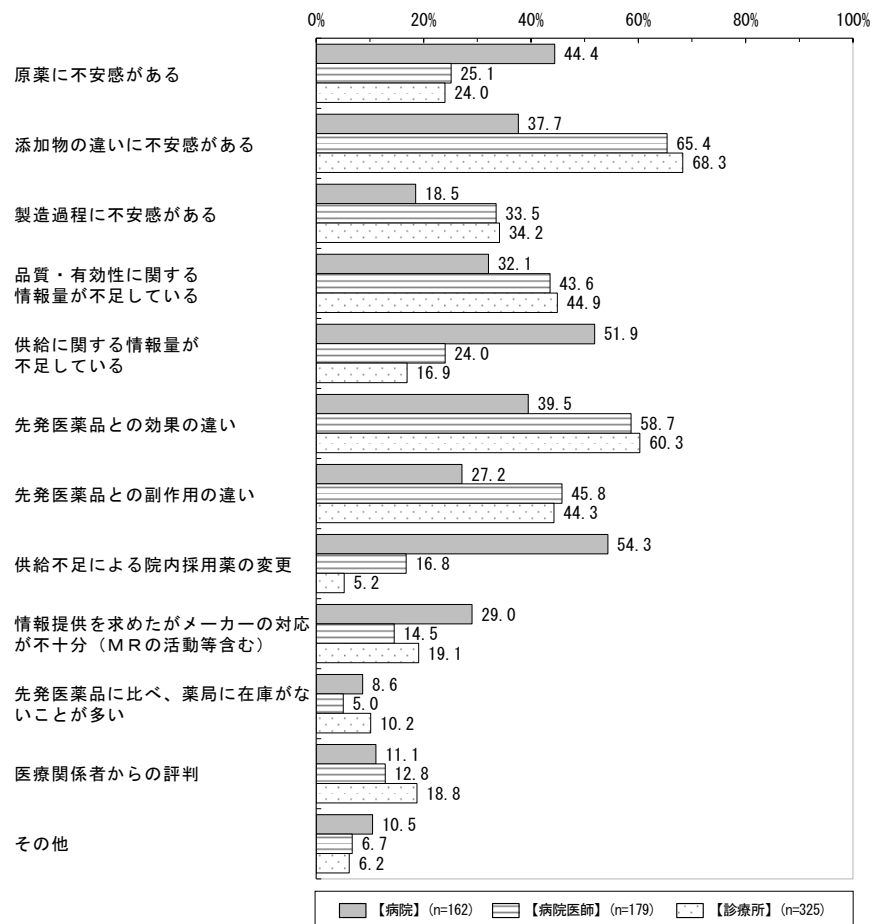
## ● 後発医薬品に対する不安感 (報告書p.110)



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

- 後発医薬品に対する不安感を抱いたきっかけや理由、内容等（報告書p.111）

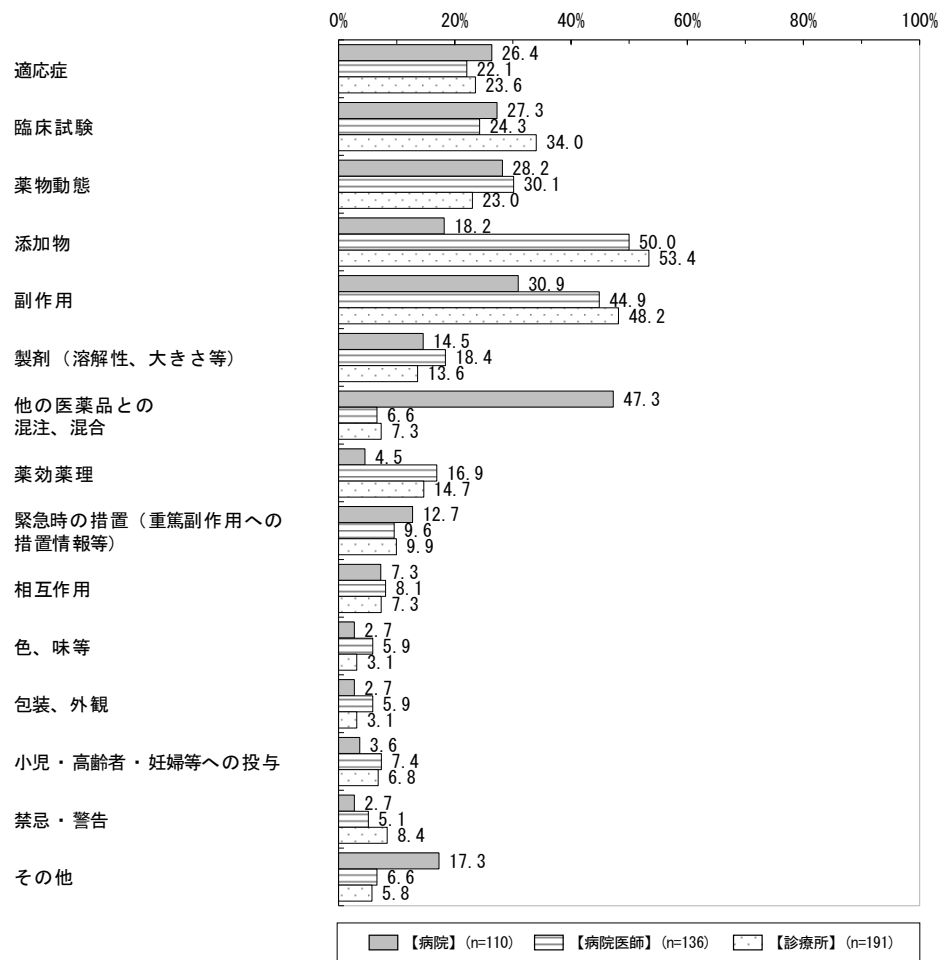
対象	1位	2位	3位
病院	供給不足による院内採用薬の変更 約54%	供給に関する情報量が不足している 約52%	原薬に不安感がある 約44%
病院医師	添加物の違いに不安感がある 約65%	先発医薬品との効果の違い 約59%	先発医薬品との副作用の違い 約46%
診療所	添加物の違いに不安感がある 約68%	先発医薬品との効果の違い 約60%	品質・有効性に関する情報量が不足している 約45%



# 主な回答結果【病院・病院医師・診療所】

## ● 後発医薬品に関して不足していると感じる情報（複数回答）（報告書p.126）

対象	1位	2位	3位
病院	他の医薬品との混注・混合 約47%	副作用 約31%	薬物動態 約28%
病院医師	添加物 約50%	副作用 約45%	薬物動態 約30%
診療所	添加物 約53%	副作用 約48%	臨床試験 約34%

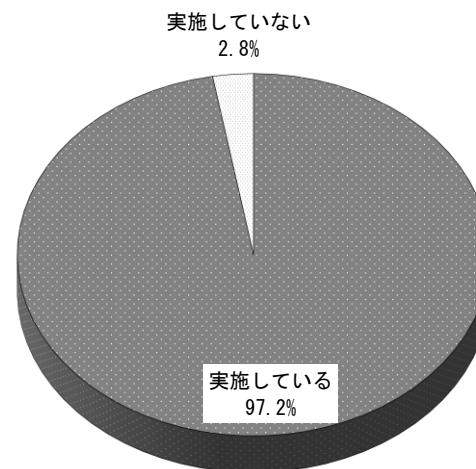


# 主な回答結果【保険者】

## ● 後発医薬品の使用促進に向けた取組の実施（報告書p.132）

- 実施している ……約97%

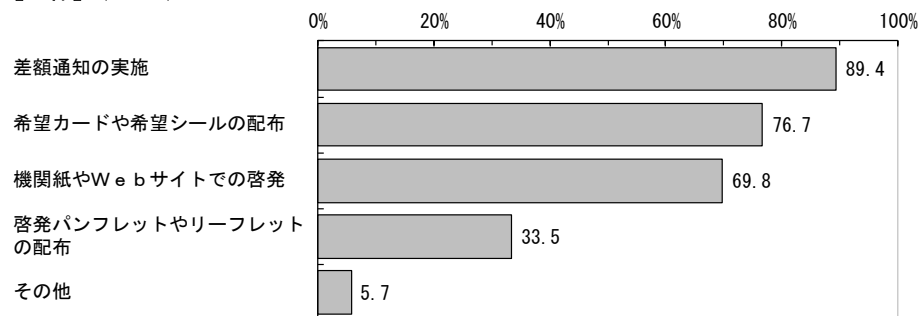
【全体】（n=252）



## ● 後発医薬品の使用促進に向けた取組の実施内容（複数回答）（報告書p.133）

- 差額通知の実施 ……約89%
- 希望カードや希望シールの配布 ……約77%
- 機関紙やWebサイトでの啓発 ……約70%

【全体】（n=245）

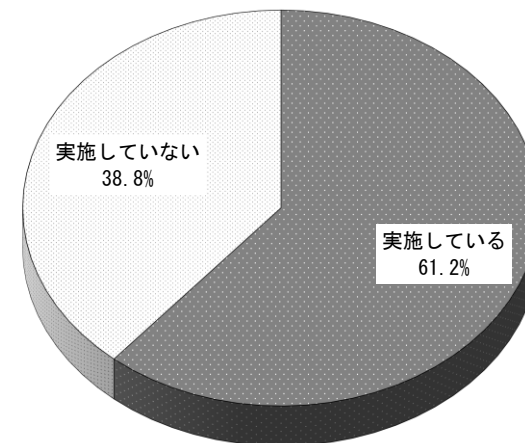


# 主な回答結果【保険者】

## ● 差額通知の切替効果の検証実施有無 (報告書p.141)

- ・ 実施している ……約61%

【全体】 (n=219)



## ● 直近で行った差額通知の1人あたりの切替効果額 (報告書p.144)

効果額／月	構成比
100円未満	4%
100円以上 1,000円未満	18%
1,000円以上3,000円未満	51%
3,000円以上5,000円未満	20%
5,000円以上	8%